

きらめきプロジェクト スタッフミーティングを行いました。

～きらめきプロジェクトではプロジェクトの活動の一つとして、日頃は診療や研究などで忙しく業務にあたっているスタッフたち同士の交流の場となるよう、定期的にミーティングを行っています～

今年度最初となるスタッフミーティングには、プログラム責任者加藤 聖子先生、副プログラム責任者の先生方、顧問 樗木 晶子先生をはじめ、スタッフの先生方のご参加がありました。

今回は周術期口腔ケアセンター及びその業務について、センター長の和田 尚久先生にもお話しいただきました。

Zoom開催のため、画面越しではありましたが、普段はなかなか顔を見ながら話す機会が少ない中、これからの業務の励みとなりました。



令和7年度きらめき講演会を開催します

今年度講演会は九州大学馬出地区 4 部局合同男女共同参画FDと合同で開催します。講師として、九州大学副学長 九州大学男女共同参画推進室副室長の玉田 薫 先生をお招きします。

日時：令和7年9月29日(月) 18:00～19:00

会場：病院キャンパス アイン薬局九大南店 2階大会議室

対象：九州大学 教職員・医療従事者・学生



九州大学病院 臨床教育研修センター

きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX：092-642-5203

E-mail：kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL：https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/



性差医学入門講義を行いました

～きらめきプロジェクトでは、プロジェクトの活動の一つとして、医学部・歯学部の学生に対し、医療人としてのプロフェッション教育を行っています～

●性差医学入門講義(医学部2年生対象)

6月10日(火) 3時限目

講師：

九州大学大学院医学研究院保健学部門 講師

きらめきプロジェクト副プログラム責任者

宮田 潤子 先生



宮田 潤子 先生

宮田先生は、小児期の病気による性の問題をいくつかの症例を交えながらお話しされました。

今回の講義では、病気による性の問題や性差と病気との関係を学び、更には患者さんのメンタルに寄り添うことの大切さを学びました。

学生にとって、性差・性差医療の必要性和重要性について自分なりに考えるよい機会となりました。



(講義風景)





日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します



卒後13年目の眼科医です。

初期研修を終えた後、九大眼科に入局し、関連病院で働いた後に7年前から大学病院で勤務をしています。

現在5歳の娘と2歳半の息子がおり、夫は自営業で週の半分は県外にいます。出産後もフルタイムで仕事復帰していましたがカンファレンスや手術等で帰宅時間が遅くなり保育園で夕食を食べてもらったり、土日仕事があり実家に預ける日々が続いていました。家事育児・仕事でいっぱいになってしまい、子供達との時間も取れない中で働き方を見直し、先輩方のご助言もいただいて、昨年度よりきらめきプロジェクトに参加させていただいています。

週2日勤務であるため、担当症例や担当手術の件数は減ってしまいましたが、仕事内容としてはフルタイム時とほぼ同じようにできています。何より教授や医局の先生方、同じグループの先生方にご理解をいただいております。勤務時間を気にしていただいたり、仕事を代わりに引き受けて下さったりとご配慮いただいております。

子供達とゆっくり過ごす時間も増え、きらめきプロジェクトに参加して本当に良かったと思っています。大学勤務は難しいと考えていた時期もありますが、専門分野の勉強は大学でしかできず、このように勉強が続けられている環境に感謝しながら、引き続き日々の診療を頑張っていきたいと思っています。

4月からきらめきプロジェクトに参加することとなりました。

私は九州大学歯学部卒業後、第一保存科にて研修医を務めました。研修医終了後、喘息と診断され、日常生活もままならない状態が8年ほど続きました。その間、治療・投薬を続け、徐々に日常生活は普通に送れるようになりました。

社会復帰を考えたとき、離職してからの時間が長く、また体力的な不安もぬぐえなかったため、口腔ケア業務から再出発しました。

その後、やはり治療技術の必要性を感じ、2023年3月から医員として九州大学病院高齢者歯科・全身管理歯科に勤務するようになりました。しかし、体力的な面などから医員としての勤務は難しいと感じるようになっていたところで、自分の希望に合う時短勤務が可能であるきらめきプロジェクトに応募させていただくことにしました。

きらめきへの応募・採用決定後にも脊柱管狭窄症の手術を受けたり、他の病気の治療をすることとなりましたが、短時間勤務ではありますがキャリアを続けることができ良かったと思っています。

これから少しずついろいろな面で余裕が出てくればと思っています。

